

川崎の 社会福祉

川崎市
社会福祉協議会

2021.10
October

秋
No.594



赤い羽根共同募金運動が始まります

詳しくは6ページをご覧ください



川崎市社会福祉協議会
キャラクター ななふく

2021年
10月号の記事

- 役員改選のご報告 P2
- 川崎市長と地域の未来を語ろう P4・5
- 令和2年度事業報告・決算 P3
- 心配ごとをお聞かせください P7

川崎市社会福祉協議会 役員改選のご報告

川崎市社会福祉協議会では、役員の任期満了に伴い、去る6月30日に開催いたしました理事会において、役員改選が行われましたのでご報告いたします。

正副会長及び常務理事、担当理事は下記のとおりです。なお、任期は令和3年6月30日～令和4会計年度に開催する定時評議員会（令和5年6月）終結の時までとなります。

会長	浮岳 勇仁	川崎区社会福祉協議会担当理事	岸 茂信
副会長	山本 浩真	幸区社会福祉協議会担当理事	加藤 満治
副会長	奥村 尚三	中原区社会福祉協議会担当理事	青木 英光
副会長	森 昭司	高津区社会福祉協議会担当理事	富田 誠
常務理事	邊見 洋之	宮前区社会福祉協議会担当理事	浮岳 勇仁
川崎市あんしんセンター担当理事	高橋 慶	多摩区社会福祉協議会担当理事	吉田 紀代子
		麻生区社会福祉協議会担当理事	山本 浩真

退任あいさつ

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

前会長 佐藤 忠次



就任あいさつ

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

浮岳 勇仁



このたび、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会会长を退任いたしました。

平成26年7月に当協議会会长に就任して以来、社会福祉法人制度改革や大規模災害発生時の災害ボランティアセンター設置対応など社会福祉協議会を取り巻く状況もめまぐるしく変化してまいりました。元号も「平成」から「令和」へと新たな時代へと移り変わり、当協議会においても市内7区の社会福祉協議会との法人合併により合理的・効果的な経営基盤の強化を図ることで、新たな川崎市社会福祉協議会として役職員が一丸となり、より一層の地域福祉の推進に尽力してまいりました。

在任中は長期に渡り、会員ならびに市民の皆様方より、常日頃から福祉に対する深いご理解とご協力、ご支援をいただいたことで、大過なく任期を務め得ましたこと、誠に有難く、心より御礼申し上げます。

末筆ながら、浮岳新会長のもと川崎市社会福祉協議会が今後も益々発展することを切に願うとともに、川崎市民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

令和3年6月30日

令和
2年度

川崎市社会福祉協議会 事業報告・決算

下記4項目を重点事業と位置付け、事業を実施いたしましたので報告します。

一 新型コロナウィルスへの対応

全ての事業及び施設運営において感染症対策を徹底するとともに、長引く自粛の影響で生活困窮におちいった方への支援・相談業務に尽力しました。



生活福祉資金特例貸付による生活支援
市内企業や関係機関と連携した「食糧支援かわさき」

① 社協らしい地域包括ケアシステムの推進

- (1) 市社協と区社協の一体的な運営
- (2) 会員間の連携・情報共有を強化し、地域包括ケアシステムを推進



市内の地域活動を紹介する地ケア事例集を発行。福祉の情報発信に努めました。

③ 第5期地域福祉活動推進計画の策定

- (1) 令和3～5年度の本会の基本方針となる「第5期地域福祉活動推進計画」を策定



法人の公益的取り組みへの支援や、災害に強い地域づくりの推進を重点的取組としています。

② 組織経営基盤の強化

- (1) 事業・予算の精査と財源確保による組織基盤強化・財政健全化を実行
- (2) 成年後見制度利用促進への体制強化
- (3) 「総合研修センター」開設への準備



本年4月に開設した総合研修センターでは、福祉人材育成のための研修・講座を多数実施しています。

④ 地域防災力の向上

- (1) 大規模災害発生時に向けた、災害ボランティアセンター運営体制の見直しと強化



川崎市、かわさき市民活動センターおよび本会の役割分担を含めた「災害ボランティアセンターに関する協定書」の見直し等を行いました。

収入
(決算) 5,759,592,782円



支出
(決算) 5,505,496,736円



詳しい資金収支計算書及び事業報告はホームページにてご覧いただけます。▶



令和3年6月30日

川崎市長と

地域の未来を語ろう

川崎市社協は、地域に住むすべての人が安心して暮らせるよう、川崎市や関係機関と協力しながら福祉のまちづくりを進めています。そして今、長引く感染症拡大の影響で生活に不安や困りごとを抱える人が急増しており、誰も取り残さないための社協の活動はより一層重要性を増しています。

6月15日には福田紀彦川崎市長と社協職員による意見交換会が開かれ、地域福祉推進と支え合い活動に取り組み続けるわたしたちの声を届けました。

コロナ禍で 社協が取り組む地域支援

「誰も取りこぼさないまち」を目指して。
私たちはこんな活動に取り組んでいます。

感染症の影響による休業・失業等で、生活にお困りの方に向けた「生活福祉資金特例貸付」が行われています。貸付の申請窓口である社協には毎日多くの市民が相談に訪れ、中には日本語の読み書きが難しい外国人の方も。川崎区社協では他言語に訳した申請書を職員自ら手作りし、誰もが等しく支援を受けられるようお手伝いしています。

市長の声

貸付の申請率が伸びているのは皆さんの工夫のおかげだと思っています。今のコロナという緊急時、本当に困っている人を見つけて、支援へ繋げることは大切なこと。

また、外国の方々への対応についてもありがとうございます。多様性は川崎市の特性の一つであり、特にこの5年間で外国人市民が急激に増えていて、福祉や教育の現場などで様々なサポートが必要でした。不安な気持ちでこのコロナ禍を過ごしている方々へ温かい対応をいたしていること、市長として心より感謝しています。



対面によるふれあいや支え合い活動が難しい今、社協ではインターネットを利用した地域交流活動を推進しています。市内ボランティア団体や福祉施設、パソコンが不得意な高齢者に向け、オンラインツール・Zoomの活用についての勉強会を開催。50名募集の枠に170名の応募を集めた回もあり、関心の高さを実感しています。



市長の声

応募数が定員の3倍とはすごい!おそらく地域にはもっと高いニーズがあるんだろうと感じられますね。

行政でも、各種手続きのデジタル化は力を入れて進めている所です。しかし、利便性のために取り入れたテクノロジーも、その結果かえって情報を得ることが難しくなる方々もいらっしゃいます。誰も取りこぼさない方法を、並行して検討していかなければいけません。そしてデジタル化を進めて余力が出た部分を、支援が必要な部門に回していくなど、事業を最適化しなければと考えています。これは、企業も含め様々なステークホルダーと協働しながら進めたい課題です。社協の現場感覚も伺いながら、すり合わせていきたいですね。



家庭で食事を取っていないなど、ネグレクトの恐れがある子ども達がいます。コロナ感染拡大による一斉休校の時期、学校含む関係機関や地域がその子ども達を見守ることが難しくなりました。

そこで私たちは、心配な家庭に食糧を届けながら、子ども達の安否確認や保護者から困りごとを聞き取れるよう、食糧支援の仕組みをつくりました。



市長の声

このコロナ禍での食糧支援では、関係機関との連携なども含め、社協の皆さんには熱心に取り組んでもらっています。私も、そして地域の方々も、社協の働きをとても心強く、頼もしく感じています。

身近な地域の中で、新たな居場所や人とのつながりを育むために「食糧」はキーになっており、困りごとを抱える人の声を拾い上げるのに大変重要なツール。これからも、皆さんのが持つ経験から、家庭や地域のニーズを引き出す方法を、ぜひ私たち行政に教えてください。

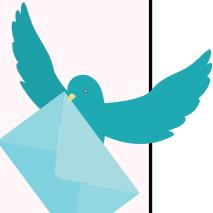


意見交換会を終えて 市長からのメッセージ

感染症拡大は、人々の外出控えや地域活動の自粛をもたらしました。他者とのつながり・地域で支え合う力が弱まっていると感じます。

そんな中、社協は、人々のつながりを絶やすいための取組みを続けてくれました。本当にありがとうございました。感謝しています。

地域力の立て直しと活性化に向け、福祉の現場を良く知る社協の皆さんには心強い味方。これからも一緒に、川崎のまちづくりへ取り組んでいきましょう!



社協から皆さんへ。伝えたいこと。



私たちはコロナ禍で厳しい情勢の中、市内の社会福祉法人、福祉施設、民生委員、大企業から小さな商店まで多くの方々から応援を受け、地域支援の取組みを進めてきました。日常の小さな幸せを市民の皆さんを感じていただけるよう、地域に密着した活動を積み重ねることで、どこの都市にも負けない福祉のまちづくりができると信じています。これからも、私たち社協の活動を温かく見守ってください。

市社協会長を3期務め、川崎の地域福祉へ長年貢献された佐藤忠次前会長へ花束が贈されました。



10月1日から赤い羽根共同募金がはじまります！

今年も10月1日から、全国で赤い羽根共同募金運動が実施されます。

お寄せいただいた寄付金は、市内の様々な地域福祉活動や大規模災害時の災害ボランティア活動に役立てられています。今年も皆様のあたたかいご支援をよろしくお願ひいたします。

募金の使い道

次のような活動に役立てられています。

●障害者を支援する活動に



障害者週間キャンペーン

●子ども虐待防止を支援する活動に



児童虐待防止運動

●高齢者のふれあいを支援する活動に



ふれあい会食会

川崎フロンターレとのコラボピンバッジや、神奈川オリジナルの動物ピンバッジによるグッズ募金を取り扱っています。数に限りがございますので、ご希望の方はお問合せください。

«お問合せ» 神奈川県共同募金会川崎市支会連合会
TEL: 044-739-8716



赤い羽根データベース「はねっと」
共同募金の使いみちは市町村ごとにデータベース化し、公開されています。

はねっと



生活福祉資金貸付制度のご案内

社会福祉協議会では、低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯などへ資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的に、生活福祉資金貸付事業を実施しています。資金は目的別に、「福祉資金」「教育支援資金」「不動産担保型生活資金」「総合支援資金」の4種類があります。貸付には条件があり、審査を経て決定されます。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少があった世帯に向けて、緊急小口資金及び総合支援資金（生活支援費）について、特例措置が設けられています。受付期間は、令和3年11月末までです。（令和3年8月末時点）

~お問い合わせはお住まいの区社会福祉協議会へ~

- *川崎区社会福祉協議会 TEL:044-246-5500
- *幸区社会福祉協議会 TEL:044-556-5500
- *中原区社会福祉協議会 TEL:044-722-5500
- *高津区社会福祉協議会 TEL:044-812-5500
- *宮前区社会福祉協議会 TEL:044-856-5500
- *多摩区社会福祉協議会 TEL:044-935-5500
- *麻生区社会福祉協議会 TEL:044-952-5500

ささえる・つながる 心配ごとをお聞かせください

社協は、さまざまな相談支援をとおして、皆さんの毎日の暮らしをお手伝いしています。

福祉のサービスについて知りたい

どこに相談していいか分からぬ

ふくし相談

日々の暮らしの中での困りごと・心配ごと、福祉に関するさまざまな相談をお受けします。

相談日 月～金
(祝日・年末年始除く)
9時～12時、13～16時

TEL 044-739-8719

相談内容に応じて、弁護士・精神科医・臨床心理士による専門相談へつなぎます。

職場の人間関係がしんどい

ついイライラしてしまう

要予約

こころの健康相談室

ふおーえむ

市内福祉施設に従事する方を対象にしたメンタルヘルスケアの相談窓口です。
臨床心理士がお話をうかがいます。

相談日 不定期の月曜もしくは金曜
13時30分～16時

※詳しい日時はお問い合わせください

予約TEL 044-739-0058

一人暮らしの高齢の親、大丈夫かな
障害のある子の将来が心配

要予約 成年後見制度のご相談

制度に詳しい弁護士・司法書士・社会福祉士が、疑問や悩みにおこたえします。

相談日 第1水曜(弁護士)
第2水曜(社会福祉士)
第3水曜(司法書士)
14～16時

※詳しい日時はお問い合わせください

予約TEL 044-712-8071

社協の相談窓口はすべて**無料**です。
安心してご利用ください！



広告



ソリューションを活かしたリスクマネジメントで
みなさまの安心と安全をお守りします



REASONABLE/【形】納得のいく、思慮のある、合理的な/
わたしたちが選ばれているには、理由があります。

経理代行業務

税務申告代理業務

相続対策・申告代理業務

各種コンサルティング



SKIP税理士法人
〒102-0084 東京都千代田区二番町12-13 セブネスピル
tel. 03 5276 2072 fax. 03 5276 2074

寄付御礼

たくさんのご寄付を
ありがとうございます

(～令和3年8月31日)(順不同)

川崎市社会福祉協議会の
地域福祉活動へのご寄付

●マルハン川崎桜本店 様(令和3年8月4日受領)

いただいた寄付金や物
品は、さまざまな地域福
祉活動へ役立てられて
います。



無料 講座

あなたの
ヤル気を応援!

チャレンジしませんか? 福祉のお仕事

「人の役に立つ仕事をしたい」「日頃磨いた家事力を活かしたい」

その気持ち、福祉のお仕事で活かせます! スタートにぴったりな無料講座をご用意。



暮らサポ養成研修

高齢者宅での洗濯・掃除など、家事支援専門のヘルパー養成研修

日時 12月17日(金) 10:00~16:45

会場 福祉パルたま(小田急線向ヶ丘遊園駅北口から徒歩3分)

詳細はお電話ください 介護支援課 TEL:044-739-8712

ホームヘルパーのお仕事講座

先輩ヘルパーの体験談や資格紹介など、「ヘルパーってなに?」の疑問に答えます

日時 11月17日(水) 14:00~16:00

会場 福祉パルたま(小田急線向ヶ丘遊園駅北口から徒歩3分)

詳細はお電話ください 福祉人材バンク TEL:044-739-8726

おすすめ 福祉のDVD!



ひとりも取り残さないために ～インクルーシブ防災～

- 監修・出演:立木 茂雄(同志社大学社会学部教授(福祉防災学))
- キャスター:千葉 絵里菜(NHKパラリンピック放送リポーター)
- 制作:NHK厚生文化事業団(2021年)

地震や豪雨災害などが発生した際に、自力での避難が難しい障害者や高齢者の死亡率は、一般の人の約2倍と言われています。その後の避難生活で体調を崩す災害関連死を含めると更に多くの方が亡くなっています。
そのような人を減らすためにはどうしたらよいのでしょうか?

このDVDでは、「インクルーシブ防災(誰一人取り残さない防災)」という考え方について、避難編(72分)と避難生活編(76分)に分けて解説しています。

- ・災害時ケアプラン(避難時の個別計画)とは
- ・災害時における福祉専門職と地域住民の役割とは

大分県や熊本県での具体的な取り組みも紹介されています。ご自分の地域でのインクルーシブ防災を考える参考にしてみませんか。

エボックなはら6階で
貸出しています

蔵書検索は「ふくみみ」で!



地域福祉情報バンクへのお問合せ

Tel. 044-739-8720 E-mail: jyoho@csw-kawasaki.or.jp

■編集・発行

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

住 所:川崎市中原区上小田中6-22-5 TEL:044-739-8710(代) FAX:044-739-8737
E-mail: info@csw-kawasaki.or.jp HP: http://www.csw-kawasaki.or.jp

広報紙「川崎の社会福祉」に掲載する広告を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

発 行:年4回(4・7・10・1月1日)

年間購読を希望される方は、84円切手
4枚をお送り下さい。